

重要文化財 旧東慶寺仏殿

保存修理事業



旧東慶寺仏殿では現在、保存修理のための工事をしています。茅葺屋根・こけら葺屋根の劣化が著しいことに加え、建物本体に歪みや破損もあるため、半解体修理を実施します。貴重な文化財を守り続けるための、大規模な長期事業です。

大規模工事
第2弾!



We are working on the construction of Buddhist Sanctum of Former Tokeiji Temple. This building is distorted or damaged, and its roof is deteriorated. So we are dismantling the part of it, repairing the distortion or damage and reroofing of thatched roof and thin board roof. It is a long project for these important cultural properties to keep protecting.

はんかいたいしゅうり 半解体修理とは

古い建造物では、雨漏りによる腐朽や虫害、地震・台風のような災害被害などにより、材料が傷み建物が弱ってしまうこともあります。その場合に伝統木造建築で行うことのある手段が「解体修理」です。

伝統木造建築では、丁寧に作業することで、材料をあまり傷めずに建物をほどいていくことが出来ます。バラバラの状態にして傷んだ部分を取り替え or 繕いをし、また元の形に組み立て、建物の命を長らえる。これら一連の作業を「解体修理」といい、日本の伝統的な建造物の維持保存の手段として行われてきました。昨今では文化財建造物の維持保存の手段として主に行われる手法で、今回は屋根から解体を始めて、建物の骨組みを途中まで解体する「半解体修理」を実施しています。



解体作業の様子。部材を傷めないように、丁寧にほどいていく。

バラバラにする際には修理を行うだけでなく、バラバラにしている時だからこそ見える・分かることがあることを活かします。建立（または移築）時の手法、使用した道具の痕跡など、綿密な調査により様々なことが判明します。これが解体修理の醍醐味です。今回も解体調査によって様々な知見が得られつつあり、文献調査・科学的な調査などから判明したものと併せて、建物の由来や経歴が少しずつ紐解かれてきています。



釘の跡を調べる「痕跡調査」。白が明治の移築時、赤が創建当初の痕跡。

